

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治

文 責 佐々木 正道

発行日 平成29年4月28日

教育目標『明日を拓く』を生かした学校づくりを

校長 小野寺 憲治

今年度は132名の新入生を迎え全校生徒370名となり、平成29年度がスタートしました。各学級では生徒会役員や学級役員、係活動などが決まり新年度体制が整い、順調に滑り出すことができました。1年生のために、7日に「明日を拓く集い」(対面式)が行われ、生徒会組織の説明や部活動紹介を行いました。1年生は、放課後や休日の部活動見学や体験に参加し、所属する部活動を決めました。授業も計画的に進んでいます。緊張がだんだんと解けてきて、活発に自分の考えを発表する生徒が増えてきています。適度な緊張感と主体的・対話的に学ぶ姿勢を大切にして学習に取り組むことを期待しています。入学式では以下のようなことを話しました。

本校の教育目標は、「明日を拓く」(あすをひらく)です。内容項目として3点あり、「豊かな心」「活きた知性」「たくましい体」となっています。

「豊かな心」とは、人に対し優しい心や命を大切にすること、自分の命もほかの人の命も大切にすることです。人に思いやりをもち優しくすること、「命」についてしっかりと考えることによって「よりよく生きる心」が育まれます。自分を大切に、ほかの人も大切にすることをもって中学校生活を送ってほしいと思います。

「活きた知性」とは、自ら努力し一生懸命に「学ぶ」ことです。先生に教えてもらうだけではなく、授業や生徒会活動、学校行事などを通して、仲間と協働して、社会生活を送る上で必要な資質や能力を身に付けることが大切です。様々なことに挑戦し、失敗から多くのことを学び、学んだことを生活の中に活かしてほしいと思います。

「たくましい体」とは、体を鍛えることはもちろん、「心」を鍛えることや「学ぶ」意欲が旺盛なことも意味しています。学校は、教科での知識や考え方だけを学ぶ場ではありません。学級や学年、部活動の中で人間関係を学び、心身を鍛え、社会の一員になるための基礎をつくる場でもあります。一度で理解できなければ何度でも努力してみる。そして粘り強く繰り返し学ぶ姿勢が、必ずいつかは実を結びます。

もうひとつは、「目標や希望をもち続ける」ということです。目標や希望をもち続けることは、自分の心を元気にすることです。目標達成までの過程を自分で考えることは、自分自身で将来を切り拓く心、教育目標である「明日を拓く」ための力をつけることになります。どんなことでも失敗を恐れず挑戦し続けてほしいと思います。また、いろいろなことに興味や関心がわいてきます。そのことは、とても大切なことです。時々、うまくいかないときがあります。そのようなときは、まずは自分で考え、次に誰でもいいので他の人に相談することです。そのことで、すばらしい解決策に自分で気付くことがあるかもしれません。

また、今年度の重点目標は、「生徒一人一人が誇りをもち活動する活気ある学校を目指して」です。学校生活を通して、「自信がもてた」「できるようになった」「誇りをもてた」と、生徒一人一人が実感できる教育活動を推進していきます。具体的には、日々の学習、各種行事、部活動、学級活動など全教育活動を通して、「東陽中学生としての誇りを感じる」、「東陽中で学べて良かった」等、所属感や有用感を高め、自分の目標に向かって生き生きと活動する生徒を育てていきます。私たち教職員は、「チーム東陽」として一丸となり、重点目標達成に向けて教育活動を推進していきます。保護者や地域の皆様には、昨年度同様、今年度もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

祝 39歳 旭川市立東陽中学校 5月1日開校記念日

39年前の昭和53年、当時あった東光中学校と光陽中学校の過密化を防ぐために開校したのが東陽中学校です。

「太陽は東から昇り、地球上のあらゆるものはこの恩恵を受けている。さわやかな太陽が昇り、光を四方に広げるがごとく、生徒の成長と力強い活躍、発展への願いを校名に託した。」と、記録に残っています。

また、校章は太陽の円形を土台に旭川の樹木「ナナカマド」の葉と3本のペン先があらわれ、郷土と学問への思いが込められています。